

大学図書館蔵書の貸出傾向:経年変化の主題別比較

The Circulation Pattern among Subjects in the Academic Library Collection.

学籍番号：201321644

氏名：西野 祐子

Yuko NISHINO

本研究は、図書の貸出分析のなかでも、受入や出版からの年数の経過に伴う図書の貸出減少に着目した。これまでの研究では、経年的な図書の貸出そのものの減少、またそれらの主題による差異は明らかにされていない。そこで本研究では、経年的な図書の貸出減少の有無および主題による経年的な貸出減少の傾向の差異を検証した。

分析に用いる指標として、これまで使われてきた累積貸出率、年度別貸出率に加えて、連続貸出率の推移を用いた。連続貸出率とは、前年度から連続して貸出がある図書の、受入から一年後に貸出のあった図書全体に占める割合のことである。これらより、図書の貸出減少の有無の検証を試みた。さらに日本十進分類別にこの三つの指標を比較し、主題による傾向の差異の検証を行った。

分析対象としたデータは、X 大学図書館の一年間の受入図書のうちの貸出可能な日本語図書（指定図書含む）である。受入図書は 2006 年度（12,634 件）、2007 年度（11,512 件）、2008 年度（12,081 件）の三図書群を設定し、書誌記録および受入年度から 6 年分の年度ごとの貸出回数データを用いて集計を行った。受入図書は書誌単位で集計し、複本はまとめて一件数えているが、複数巻で一つの著作が構成されている場合はそれぞれ別々のものとして数えている。また貸出は学生（学部生、大学院生）によるもの限定し、更新回数も合算した。

その結果、連続貸出率の減少はどの主題でも見られる一方、その減少の速度や大きさは主題によって異なることが示された。歴史、心理学を除く哲学、文学の各主題は連続貸出率の減少が、社会科学や自然科学の各主題より急激であった。しかし、累積貸出率が増加していることから、受入から相当年数が経過したあとも貸出される可能性があると考えられる。そのため、連続貸出率の急激な減少から、図書の陳腐化が早く古い図書が利用されない主題であると解釈するのは早計であると考えられる。

研究指導教員：逸村 裕

副研究指導教員：池内 淳